



に任せた演奏。その二つを対比させることによって、より人間の感情が強調される楽曲になることを目指しました。

— AIを用いた作曲にはどのような魅力があるのですか。

AIを用いた作曲の面白さは、今までとは違う、新たなクリエイティビティが問われることです。AIを用いると、音楽に新たな価値を発見することができるんです。現時点で、テクノロジーの活用は音楽業界ではあまり進んでいません。CDやレコードの売り上げが落ち込むなかで、これからは今まではなかった新たな価値を、音楽の中に発見していくことが重要になるでしょう。

AIを活用する動きを音楽業界の中にも広めていきたいと思っています。具体的な取り組みとして、EXDREAMではAIを用いた作曲専門のスクール「caplay」を開いています。また、将来的には音楽テクノロジーを教える大学や大学院も作りたいて考えています。与えられたAIのサービスを使うだけでなく、自分でその仕組みを理解して作れるようになってもらいたいと考えています。

のプロセスの中にある作業にすぎません。もし今後AIが意思を持つようになり、音楽を通して願いや感情を人々に投げかけることができるようになったら、本当の意味で「AI作曲」といえるのかもしれないですね。

— AIを用いた音楽はどのように作成されているのですか。

AIにも実はいろいろな種類があるのですが、私は人間の脳の仕組みを応用したニューラルネットワークという技術を用いています。これは大量の音楽データを学

習させることで、その中からAIがいくつかのパターンを発見し、それに基づいて新しいメロディーを生成するというものです。例えば「手塚治虫 AI復活プロジェクト」[TEUKA2020]のCM音楽を作成した際には、70年代ロックのギターリフをAIに学習させ、ギターのメロディーを生成しました。生成されたいくつかのメロディーの中から良いと思ったものを人間が選んで繋げ、譜面を完成させました。そして、AIが生成したギター以外のパートは、人間のアドリブ演奏で構成しました。AIが生成したフレーズと人間の感情